

盛 圭太 「Bug report」

2020. 1.12(sun) — 2020. 3.15(sun)



「Template」2017年、綿糸、木綿糸、写真 80 x 60 cm © ADAGP Keita Mori
Courtesy the artist and Galerie Catherine Putman, Paris.

この度、rin art association では初の個展となる盛 圭太「Bug report」を開催いたします。盛は 2004 年に多摩美術大学卒業と同時に渡仏し、以来 16 年パリを中心にキャリアを積んできました。2020 年にはパリ市拡張計画「グラン・パリ」における初の国際的芸術文化拠点事業「FIMINCO 財団レジデンシープログラム」にも抜擢されるなど著しい活躍を続けております。

本展では、代表作の糸を使ったドローイングシリーズ「Bug report」の新作のほかに、初期モダニズム建築を接写したプリント上に、糸のドローインを施したシリーズ「Template」を共に発表し、盛圭太のドローイングを包括する展覧会となります。

盛はドローイングの線となる糸について『衣類を家に例えるとすれば、糸はその建材の目を果たす』と示唆します。それ故に彼のドローイングには建築的もしくは空間的なイメージが現れるのかもしれません。本展のために、現地制作されるウォールドローイングは、下書きという『仮設』のない作画によって、イメージの『仮説』が構築されることとなるでしょう。貴重な機会となりますので、是非ご高覧ください。

statement

ドローイングという表現媒体の資質を拡張すべく、2011 年から紙や壁の上に糸をグルーランで張る独自の手法でドローイングを制作している。予め均一で糸による物質的な『線』は、鉛筆やペンによる線とは異なり、ニュアンスのない計画的な線である。この糸の線は、比喩的に『制度』や『社会』の構成要素に見立てられ、紙や壁に付け加えるたびに集積する亀裂(バグ)と変化をレポートすることで暫定的な現実の存在を探っている。

盛 圭太

1981 年北海道生まれ。多摩美術大学卒業後渡仏。文化庁新進芸術家海外研修員としてフランスパリ国立美術学校に在籍。その後パリ第 VIII 大学大学院美術研究科先端芸術修了。パリを拠点に活動を行っています。

2017 年フランス初のコンテポラリードローイングに特化したアートセンター、ドローイング・ラボにて、施設のこけら落しとなる個展「Strings(キュレーション : ガエル・シャルボ)」を行いました。近年の主な展覧会に、「Walk The Line - New Paths in Drawing」ヴォルフスブルク現代美術館、ヴォルフスブルク ; 「DOMANI・明日展 寄留者の記憶」国立新美術館、東京 ; 「ART ON PAPER」パレ・デ・ボザール (BOZAR)、ブリュッセル : 「社会を解剖する」高松市美術館、高松 : 「The Projective Drawing(キュレーション : ブレット・リットマン)」ドローイング・ラボ、パリ : 「〇動」国際芸術センター青森 (ACAC)、青森 : 「Templates」ギャラリー・カトリー・ヌ・プットマン、パリなど国内外で多数の発表をしています。

盛の作品は、アキテーヌ現代美術センター (FRAC Aquitaine)、ボルドー ; マルセイユ現代美術センター (FRAC PACA) をはじめ、数多くのプライベート、パブリックコレクションに所蔵されています。また、2019 年にはフランス文化省とエメリージュ基金のコミッションワーク「アンイムーブル・ユヌーブル (l'immeuble, l'œuvre)」を受け作品を制作しました。

近年の主な受賞に、2019 年「AIC 賞」イル・ド・フランス地域文化振興局 (DRAC)、2017 年「松谷賞」松谷松縁芸術助成基金、2016 年「パレ・ド・トーキョー 新人賞ノミネート。同年「ギャラリー・ラファイエット賞 グランプリ」など。

オープニングレセプション 1月 12 日 (日) 18:00 - 20:00

パフォーマンス

1月 12 日 (日) 18:30 -

村田 峰紀

「ままならない手、
そして、その家。」

[水一日] 11:00 - 19:00 [月一火] 休廊